

# 健康福祉常任委員会所管事務調査報告

## 1 調査事項

認知症の方及びそのご家族が、地域で安心して暮らすための支援について

## 2 調査目的

- ・認知症予防ではなく、認知症になったご本人及びそのご家族に対して、行政・議会・地域として何が支援できるかを探る。
- ・認知症は長生きすれば誰でもなり得る問題であると捉え、全ての人が健幸都市・多摩市で安心して暮らしていくために、認知症になった方のご家族の精神的・経済的負担の実態を明らかにし、どのような対策が必要かを調査・研究する。

## 3 調査手法

委員会での議論・視察及び意見交換

## 4 調査期間

委員の任期中

## 5 調査内容

### (1) 委員会での議論

#### ①令和5年の議論

令和5年6月22日の健康福祉常任委員会において、委員相互の意見交換の結果、本委員会の2年間のテーマを「認知症の方及びそのご家族が、地域で安心して暮らすための支援について」とすることを定めた。

その後、テーマに関連した先進市として、同年10月24日に三重県四日市市、25日に愛知県大府市に赴き、認知症支援の先進的な取り組みについて視察を行った。

この視察をとおして、同年12月13日の健康福祉常任委員会において、委員間で協議した結果、認知症政策の効果や課題などの実際を学んだことにより、さらに調査を進め、その成果をまとめて市民にも報告する必要があるとして、2年

間のテーマを所管事務調査に位置付けることを決定した。

## ②令和6年の議論

### ア 課題の整理

所管事務調査に位置付けた後、令和6年1月11日に、TAMA認知症介護者の会いこいの会と意見交換会を実施し、認知症の方及びそのご家族への支援について、市民意見を聴取した。

その後、昨年10月の行政視察で得た知見や、先の意見交換会の成果を踏まえた上で、市の認知症政策の現状と課題を把握するために、2月22日に担当所管課に協力頂き勉強会を行った。

意見交換会及び勉強会を行った後、委員間で振り返りを行った結果、以下の3点が課題として整理され、今後の調査・研究の軸とすることとした。

- ・ 認知症見守りサポーターの養成や教育現場での啓発について
- ・ 認知症個人賠償責任保険について
- ・ 権利擁護の視点も踏まえたGPS等のあんしんサポートについて

### イ 「認知症カフェ」への着目

その後、当事者の声を所管事務調査に反映させるという観点で、4月に市内の認知症カフェを3箇所訪問した。

その後、5月30日に勉強会を開催して、今後の所管事務調査の進め方を委員間で協議した結果、認知症カフェが「認知症の方及びそのご家族が、地域で安心して暮らすため」の重要な役割を果たしていることから、市内のカフェ数がコロナ禍前後で減少している点を大きな課題としてとらえ、近隣市の認知症カフェの先進事例を視察することとし、7月23日に東京都町田市へ視察を行った。

### ウ 認知症の方向けのケア技法「ユマニチュード<sup>※1</sup>」への着目

上記の経緯により東京都町田市へ視察を行った後に、今後の所管事務調査の進め方や市への政策提言等の方針について、委員間で協議をした。

その結果、これまでの調査の成果を整理することに加えて、認知症ケアの技法として近年浸透してきている「ユマニチュード」についても着目し、秋以降の行政視察において、自治体や教育現場等での先進事例を調査することとした。

## （※1）ユマニチュード

1979年に当時フランスの体育学教師であったイヴ・ジネスト氏とロゼット・マレスコッティ氏によって生み出されたケア技法。現在では介護や看護の現場に限らず、自宅での介護においても広く用いられるケア技法として知られている。

以上の委員会での議論に基づき、先進地への行政視察を実施した。各視察での主な調査内容については、次項のとおりである。

## （2）先進地への行政視察

### ① 三重県四日市市「四日市市認知症フレンドリー宣言について」

- ・市内スーパー等のレジに「おもいやりレジ（スローレジ）」を設置
- ・認知症高齢者等「安心おかえりシール」交付事業
- ・認知症高齢者等「あんしんGPS」給付事業
- ・認知症高齢者等「あんしん保険」事業

### ② 愛知県大府市

#### 「大府市認知症に対する不安のないまちづくり推進条例について」

- ・認知症の方向け「個人賠償責任保険」の加入促進
- ・認知症サポーター養成「2万人チャレンジ」事業
- ・認知症理解促進に向けて「推進条例」の制定

### ③ 東京都町田市「町田市の認知症施策、Dカフェ<sup>※2</sup>について」

- ・市内24か所に「Dカフェ（認知症カフェ）」を設置
- ・認知症とともに生きるまちを実現するための「16のまちだアイ・ステートメント<sup>※3</sup>」の普及

## （※2）Dカフェ

町田市内で活躍する認知症当事者の方のご意見から、英語で認知症という意味の“Dementia”の頭文字を取って名付けられ、町田市主催のDカフェは「“特別な場所”から“日常の場所”へ」をコンセプトとしている。

Dカフェの定義は「認知症の人やその家族のほか、地域住民などが気軽に参加し、認知症に関する情報交換や悩みなどを共有することを目的に、定期的を開催する場。」とされており、主な特徴として、民間のコーヒーチェーン事業者と連携協定を締結し、市内のコーヒーチェーン店舗での開催も行っている点が挙げられる。

(※3) 16のまちだアイ・ステートメント

認知症であっても、そうでなくても、住み慣れた地域で地域の一員として、自分らしく暮らし続けられるまちを実現するために、共通する指針として作成。

主な特徴として、主語である「アイ=私」が「認知症である私」と「これから認知症になり得る私」であることと、各文章が認知症の人の状態や暮らしがどのようになっているというアウトカムの形で表現されている。

**④ 石川県金沢市「金沢市における認知症施策について」**

- ・包括支援センター54 地区ごとにオレンジカフェ（認知症カフェ）を設置
- ・金沢市認知症地域支援センター「認知症の相談窓口 ちむくぐる」を設置
- ・認知症見守り「みつけてネット」「見守りタグ」「みまもりシール」の推進

**⑤ 富山県富山市「富山型デイサービス推進事業について」**

- ・高齢者、障がい者（児）、乳幼児などを区別しない通所施設「富山型デイサービス」の実施

**⑥ 公立大学法人 富山県立大学 富山キャンパス**

**「富山県立大学におけるユマニチュード教育について」**

- ・ユマニチュード技法の概要
- ・富山県立大学看護学部における「ユマニチュード教育（4年間のカリキュラム内容等）」

**⑦ 福岡県福岡市「福岡市におけるユマニチュード推進事業について」**

（多摩市議会として、初めてWeb会議ツールを用いたオンライン形式で実施）

- ・自治体としての導入世界初「ユマニチュードケア」の現状調査
- ・福岡市「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」
- ・ユマニチュード地域リーダーの養成
- ・学校教育における「ユマニチュード」

**(3) 意見交換会：「TAMA認知症介護者の会・いこいの会」の皆さんと**

令和6年1月11日に、「多摩市議会 基本条例 第15条 第3項」及び、「多摩市議会が行う 市民意見の把握等に関する実施要綱 第7条 第1項」に基づき、意見交換会を開催した。

当日頂いたご意見の主なものは、認知症デイサービス運営形態の充実、介護

保険外サポートの充実、災害時のベッド型シェルター購入、介護者向けの補聴器購入助成、移動支援の充実、みんなのトイレ設置、認知症条例の制定、介護者の心身ケア、そしてGPSの小型化等であった。

以上のような意見聴取を通じて、委員会として、認知症の方を守る上で良いアイデアと思っていたことも、ご本人やそのご家族にとっては負担であったり、多くの効果を望めないなど認識を新たにしました。

#### (4) 市内認知症カフェへの訪問

当事者の声を所管事務調査に反映させるという観点で、4月13日・22日・24日に市内の認知症カフェを3箇所、委員で分担して訪問した。

実施主体やカフェの運営等、特色は三者三様であったが、共通して雰囲気がとても明るく、いずれのカフェも当事者の不安や悩みを解消するための地域コミュニティの場として機能しており、その存在の重要性を再認識した。

また、カフェの参加者と交流する中で、当委員会が2月に整理した課題等についても、GPSの小型化等、当事者視点でのご意見等を伺うことができ、今後の所管事務調査の参考となるとともに、市内の認知症カフェが「認知症の方及びそのご家族が、地域で安心して暮らすため」の重要な役割を果たしていることを再認識した。

市内認知症カフェの訪問実績は下表のとおりである。

訪問日	名称	主催者	開催場所	訪問委員
4/13 (土)	ふらっとカフェ	NPO法人 麻の葉	ふらっと麻の葉 (落合6-1-1)	藤原マサノリ 池田けい子 池田桂
4/22 (月)	すみれカフェ えがお	社会福祉法人 東京すみれ会	カフェ・シナモン (東寺方1-2-12)	藤原マサノリ 池田けい子 池田桂
4/24 (水)	からきだ匠カフェ	社会福祉法人 河北医療財団 多摩市多摩センター地域包括 支援センター	プラネットカフェ (鶴牧2-25-2)	藤條たかゆき 折戸小夜子 しのづか元

## 6. 調査の成果

以上の調査を踏まえ、総合的な成果として、次の6点に整理した。

- (1) 愛知県大府市で、かつて認知症の方が鉄道の線路に進入し死亡事故が発生。訴訟となり一時は監督責任を問われることに。結果、最高裁で支払い義務無しとされるが、この事をきっかけに個人賠償責任保険の加入を促進している。
- (2) 三重県四日市市では、徘徊する認知症高齢者向けに GPS の給付事業を開始。併せて、服や杖などに貼る二次元コードシールの配布なども行っている。町田市でも、GPS 貸与が 110 件に至っている（視察当時）。
- (3) 愛知県大府市では「大府市認知症に対する不安のないまちづくり推進条例」を制定。三重県四日市市では、認知症に関する正しい知識や理解を深めてもらうために「認知症フレンドリー宣言」を行い様々な施策につなげている。町田市では、認知症とともに生きるまちを実現するための共通指針として、16 項目の「アイ・ステートメント」を普及している。
- (4) 町田市では D カフェ（認知症カフェ）を市内 24 か所に設置。D は認知症「Dementia」の頭文字。運営は民間のコーヒーチェーンなどと協働するなど、多岐にわたる。参加者はやや固定化するものの、予約不要、出入り自由な運営が好評である。  
石川県金沢市では独自に作成した『認知症カフェ運営のハンドブック』に基づき、市内 54 の各地区でオレンジカフェ（認知症カフェ）を開催している。公民館・カフェ・喫茶店等を会場に、内容はミニ講話やアクティビティを組み合わせることで、認知症に関心をもつ地域住民の参加が多い傾向にある。
- (5) 富山県立大学では、看護基礎教育にユマニチュードを導入。ユマニチュードは知覚・感情・言語による包括的なコミュニケーションに基づいたフランス発祥のケア技法。福岡県福岡市では、このユマニチュードケア技法を自治体として世界で初めて導入し、学校教育も含めて広く市民に発信している。
- (6) 愛知県大府市の「認知症サポーター養成・2 万人チャレンジ」は、児童生徒も対象になっている。この事例の様に多くの認知症対応先進市では、公教育時期から認知症への理解促進が必要と考えている現状がある。

## 7. 今後に向けた提案

調査の成果を踏まえ、本委員会は以下の6項目を市に提案する。

### (1) 認知症個人賠償責任保険の加入の検討を（保険料は多摩市が負担、市が保険契約者）

認知症の方が他人の身体や財物に損害を与えてしまい、家族が法律上の損害賠償責任を負う場合がある。実際に日々の生活の中でトラブルになり悩んでいるご家族がいることから、多摩市においても、先進市である愛知県大府市を参考に、認知症個人賠償責任保険の加入の検討（保険料は市が負担、市が保険契約者）をしていただきたい。

### (2) GPS 機能で見守りをするツールの導入を

多摩市では現在、小型発信機を活用し今どこにいるのかを確認できる、認知症高齢者の位置情報サービス（月額 550 円、現場急行料金：1 回 1 時間以内 11,000 円、交換用バッテリー料金：2,310 円、本体破損・紛失料金：11,000 円）事業を行っているが、当事者や介護者のお声を反映した見守りツールの導入を検討されたい。

### (3) 地域社会全体が認知症に対する認識を持てるように、条例や宣言あるいは指針の制定を

認知症対策の先進市を学ぶ中で、条例や宣言・指針などを制定している自治体は、地域・市民・事業者・企業等の連携のもと認知症施策がスムーズに実行できているように感じる。地域社会（市民）の認知症に対する理解促進のために、宣言や指針の制定も考えられたい。

### (4) 居場所づくり（認知症カフェ等）の拡充と通いやすさ・運営手法の検討を

認知症当事者やご家族の居場所である「認知症カフェ」は現在、多摩市に4カ所しかない。先進市である町田市や石川県金沢市を参考にしながら、運営手法等を検討し、ぜひ拡充をお願いしたい。

### (5) 行政としてケア技法「ユマニチュード」の導入・普及啓発の実施を

介護する方の負担軽減、また何より介護を受ける方の尊厳を守るため、「人間らしさを取り戻す」という意味を持ち、知覚・聴覚・触覚などを用いたコミュニケーションに基づく、認知症の方へのケア技法「ユマニチュード」の普及啓発をぜひ検討していただきたい。

## (6) 教育現場での普及啓発を

高齢者の約5人に1人が認知症という時代になったものの、核家族化の現在、認知症という言葉は知っていてもその症状・対応は様々であることから、子どもたちからの“啓発”が大切と考える。令和6年度に配布を開始した漫画付きの普及啓発パンフレットを活用して、教育現場での学びの機会をお願いしたい。

## 8. 調査の経過

### 令和5年

---

6/22	委員会（会期中）	2年間のテーマを「認知症の方及びそのご家族が、地域で安心して暮らすための支援について」に決定
9/13	委員会（会期中）	行政視察の決定（三重県四日市市、愛知県大府市）
10/24	行政視察	三重県四日市市「四日市市認知症フレンドリー宣言について」
10/25	行政視察	愛知県大府市「大府市認知症に対する不安のないまちづくり推進条例について」
12/13	委員会（会期中）	TAMA 認知症介護者の会 いこいの会との意見交換会の開催を決定 更に、先進自治体への視察を経て、委員会として2年間のテーマを所管事務調査として位置付けることを決定

### 令和6年

---

1/11	意見交換会	TAMA 認知症介護者の会 いこいの会から「認知症の方及びそのご家族への支援」について、市民意見を聴取
2/5	勉強会	今後の所管事務調査の進め方について協議 協議の結果、市側に対して多摩市の認知症政策の現状についてヒアリングを行うことを決定
2/22	勉強会	高齢支援課から「多摩市の認知症関連施策（主な事業）と実施状況・参加人数等の実績について」を伺う。 説明後、市内の認知症カフェを可能な限り訪問し、当事者から意見聴取を行うことを決定
3/26	勉強会	訪問する認知症カフェ及び訪問委員の調整
4/8	勉強会	認知症カフェの訪問委員の決定

4/13	意見聴取	認知症カフェ「ふらっとカフェ」訪問 (藤原委員長、池田けい子副委員長、池田桂委員)
4/22	意見聴取	認知症カフェ「すみれカフェえがお」訪問 (藤原委員長、池田けい子副委員長、池田桂委員)
4/24	意見聴取	認知症カフェ「からきだ匠カフェ」訪問 (藤條委員、折戸委員、しのづか委員)
5/30	勉強会	認知症カフェ訪問の振り返りを行い、認知症カフェの先進自治体へ行政視察することを決定
6/17	委員会 (会期中)	行政視察の決定 (東京都町田市)
7/4	勉強会	10月の行政視察候補地の調整
7/23	行政視察	東京都町田市「町田市の認知症施策、Dカフェについて」
8/2	勉強会	10月の行政視察地の決定 オンラインによる行政視察を行うことの協議
9/9	勉強会	11月にオンラインによる行政視察を行うことを決定
9/12	委員会 (会期中)	行政視察の決定 〔石川県金沢市、富山県富山市、 公立大学法人富山県立大学富山キャンパス、 福岡県福岡市〕
10/23	行政視察	石川県金沢市「金沢市における認知症施策について」
10/24	行政視察	富山県富山市「富山型デイサービス推進事業について」 公立大学法人富山県立大学富山キャンパス「富山県立大学におけるユマニチュード教育について」
11/6	行政視察	福岡県福岡市「福岡市におけるユマニチュード推進事業について」 ※多摩市議会として、初めてWeb会議ツールを用いたオンライン形式で実施 ※当日は委員外議員6名も傍聴した
12/12	勉強会	委員会後に、所管事務調査の最終報告について意見交換

## 令和7年

2/21	勉強会	所管事務調査報告内容の協議
3/18	委員会 (会期中)	所管事務調査報告内容の決定